

## 第2回あかいわ創生有識者会議 委員意見(要旨)

開催日時:平成27年8月26日(水)10時~12時

開催場所:赤磐市役所2階大会議室

委員意見	
1	人口ビジョンの市内企業アンケートで、事業所の今後の方向性として「中心事業所として拡充方針」という回答が12件中4件得られたというのは大きな数字だと思う。 これが、赤磐市以外に出て事業拡張してしまうことのないよう、市の努力によってフォローしてほしい。
2	観光関係の戦略について、うまくまとまっているが、ワサビがないなという印象。 たとえば、これはある人のアイデアだが、山陽地域の山のほうに桃をデザインしたような建物をつくって、そこへ観光客を導くといったことを考えられていた。 この例は、相当に設置費用も運営費用もかかるので、この戦略に書き込むとかの話ではないが、何かこういう、地方創生の観光ルートの形成としてインパクトのあることができないだろうか。
3	赤磐市の産業支援センター創設について、ぜひ前向きに検討していただきたい。 また、今年度から産業支援センターを開設している津山市では、近々、改装した民家を活用したオフィスを事業者に格安で貸し出すことを始めるので(シェアオフィス「アートインク津山」)、赤磐市もぜひそのような取組についても検討していただけたらと思う。
4	新規就農に関して、是里では、ブドウづくりで新規就農の方が徐々に増えてこられているが、桃は新規就農者が入ってきているという感じがしない。桃の場合は、後継ぎの方とか、会社を定年後に帰ってきて就農するというパターンがほとんどなので、このままいくと、そのうち赤磐市には桃がなくなるんじゃないかという心配をしている。 市役所の中にもう少し農業に強い方を育成してほしい。そして、地域に入り込んでいただけるような市役所の職員がいないと、桃の場合は新規就農者の確保が難しいのではないかと感じている。
5	人口ビジョンの分析で、雇用の面からも農業が重要だということはわかったが、現在、行革等の影響もあって、現場に出て農業の指導を行える農業普及指導員、営農指導員の数が全国的に減少している。市として、農業担当職員が普及員として現場に出て行って指導できるようなことになれば、全国的にみてもすごいことだと思う。
6	人口ビジョンの分析をみて、29歳以下の農業従事者の割合が6%程度しかなく、思った以上に若い担い手が少ないと感じており、かなり危機感を持って受け止めている。 今後、戦略に基づいて具体的な事業を進めていくことと思うが、担い手の確保ということを優先度の高い課題として取り組んでいただきたい。
7	「高齢者が生きがいを持ち元気に暮らせる地域創出プログラム」に医療関係の施策があるのは、医療が高齢者に特化しているように受け取られるかもしれないので、ひとつ前のプログラム「支えあいを中心とした協働によるまちづくり推進プログラム」に持ってきたほうが良いのではないか。
8	分かりにくい言葉があるので、注釈を入れたほうが良い。
9	人口ビジョンの中で、小学校就学までに、市外から赤磐市へ転入してくる人が多いというのは明るい材料かなと思う。 私も同じように数十年前に岡山市から赤磐市に子育てのために帰ってきたが、理由は、3世代同居のメリットを感じたからであった。今転入している人もそういう理由が多いのか、または就学前も含めて学童期の子どもたちの居場所が沢山あることが理由なのか、この辺りの要因が分かれば良いと思う。
10	保育の関係で、将来的な幼保の一体化であるとか、子ども園であるとかそういう要素が総合戦略に入っているのかどうか読み取れなかった。
11	学校に関して、赤磐市は地域差が大きいので、各地域で特色のあることをしないとどこかが窪んだりするのではないかとと思う。教育に関心が高い人も多いと思うので、特色ある思い切った教育が必要だと思う。 たとえば、熊山地域では、CST(コア・サイエンス・ティーチャー)という理数教育に特化した教員が、岡大、県教委との連携で磐梨小、豊田小、磐梨中の3校に配属されている。こういったことを活かして、「理数教育に力を入れた学校がこの地域にはある。」とか、「英語教育に力を入れた学校がこの地域にはある。」などの特色を出していけばよいのではないか。 これらは、教育特区でなくとも今の教育課程で実施できると思うので、こういう特色ある学校を地域につくっていくことで、「赤磐市は教育に特色があって、学力も保証される」となり、岡山市や他県から入ってくる親にとってすごく魅力あるまちになると思う。 また、タブレットなども、この一つとして活用できたら良いのではないか。 この方法でなければいけないということではなく、地域によって色々な要請があると思うので、バリエーションを組んで行けばよいのではないかとと思う。

委員意見	
12	現在も、子育てには団体、民生委員、愛育委員など、いろいろな方たちが関わっていると思うが、地域・中学校区などで、コミュニティスクールというようなことはできないか。そうすると、地域の人も入りやすく、高齢者の力の活用などもできるのではないかと思う。
13	市外・県外の若い世代が、迷っているなら赤磐市に帰ってこれるような手立てとして、若者が大学卒業後、地域に帰ってきた場合には返済を免除するような奨学金制度があっても良いのではないかと思う。
14	個人的には、みんなが大学に行かなくてもよいと思うので、モノづくりができる施設、瀬戸には職業訓練学校があるが、赤磐市内にもそのようなものがあれば良いのかもしれない。
15	農業に関して、市内には多くの休耕田があるので、たとえば貸農園を大々的に行うことなども良いかと考えている。赤磐市内には農業大学校もあり、知恵や人材はあると思うので、農園を貸すだけでなく、本格的な農業はしなくなった農業経験者が間の耕作をしてあげるなどすると、借りた側は耕作する楽しみとか、無農薬のものをつくる喜びとかが得られて良いのではないか。
16	ふるさと教育について、これは学校教育だけではなく、市民、赤磐市出身者など、すべての人たちに必要なもので、何か手立てがいていないかと思う。
17	オンリーワンの総合戦略をつくっていただきたいと思う。みなさんもその気持ちがあると思うが、県下の市町村で策定中の総合戦略はドングリの背比べで、何のためにしているのかという声を聞く。その中で、私が聞いてひよっとしたら成功するのではないかと思ったのが、真庭市の林業再生プロジェクト。 ただ、行政は幅広い分野に目配りが必要で、その中でそれぞれの地域の特性を活かしていくしかないが、赤磐らしさというものを打ち出していけないと埋没してしまう。
18	赤磐らしさということといえば、前回の会議の意見にあった「結婚して出産したら赤磐市」というのがあてはまるのではないかと思う。 人口ビジョンでは、10～20代は転出超、30代と0～9歳は転入超が目立っており、数字にも表れていると思う。 これは、大型住宅団地という自然に恵まれた優良な住まいがあるからだと思うが、この赤磐らしさを「子育てするなら赤磐市」というキャッチフレーズで、「若い時は市外に出てもかまわないけれど、子どもができれば赤磐市に住もう」というコンセプトの下に施策を考えて行けば良いと思う。 そうすると、キャッチフレーズ実現のための雇用・仕事については、総合戦略にあるように農業とか製造業とかの強みを活かしていく、とか、キャッチフレーズ実現のための医療・教育施策といった具合に施策の幅も広がるので、子育てというキーワードに絡めていけば、総合戦略に出ている施策はほとんど絡んでいくと思う。 このように、総合戦略に一点突破をするうたてを付けて、それに必要な施策を絡めていけばよいのではないかと思う。
19	地場企業の育成、新規企業の誘致などは相まってすすめていくのが非常に大切なので、県外大学生の就職面接会などを通じた地元企業のPRも重要になってくると思う。 そういったことを赤磐市と連携しながら、ハローワークとしても全面協力させていただきたいと考えている。
20	奨学金の免除などの施策をこれから検討されることも大事だと思う。最近では、企業面接に帰ってこられる方の旅費に対する助成制度を岡山市などが出しているから、そういったものも参考に、学生が赤磐市の企業面接に来やすい対策というのも非常に大事なのかなと考えている。
21	赤磐市の良さをどうアピールしていくかということについて、中学生などの若い世代から意見を聞いて、それを施策に反映できれば、そこに赤磐市らしさが出てくるのではないかと思う。
22	進路を決定する時期の中学生、高校生などに赤磐市をアピールする職業講話的なことを行えば、学生の心に残るのではないか。特に、市長が出向いて講話するとなると、非常に効果があるのではないかと考えている。
23	金融機関としては、企業立地の融資であったり、移住定住の住宅ローンであったり、6次化ファンドであったり、資金面で協力させていただきたい。
24	市外で出産した後、赤磐に転入しているという傾向は、非常に目を引く部分だと思う。大型住宅団地があったり、3世代の同居というのがあるのかもしれないが、アンケート等で赤磐市のどういうところが魅力で帰ってきたのか、ということをもう少し掘り下げれば赤磐の魅力がもう少し前面に出てくるのではないかと思う。
25	根本的には雇用の場があって、安価できちんとした住まいがあって、その上にプラスアルファで魅力があれば、ひとは集まってくると思うので、そういった所をもう少し掘り下げていただければと思う。

委員意見	
26	平成23年に赤磐市の不登校が全国ワースト1ということが新聞報道されたと思う。その後何らかの取組をされてワースト1から脱却したのだと思うが、どのようにしてワースト1から脱却したのかということを知らせることも、大きな効果があるのではないかと思う。 ピンチをチャンスにという言葉もあるが、しっかりとした取り組みをしてその成果を知らせて行くことによって、赤磐は子育てに頑張っているということをPRすることもできるのではないか。
27	市役所からの情報が文書ばかりだと、なかなか高齢者はそれを読んで、回答していくということができない。寄って話し合う場があって、そういったところで情報が伝わるような環境ができると良いと思う。たとえば、空き家の情報などを提供しようとしても、文書だとなかなか言い出せないということもあると思う。
28	総合戦略のキャッチフレーズ、サブタイトルはつくったほうが良いと思うので、検討いただければと思う。
29	施策は、何をやるかということと、どういう手法でやるかということによってきまると思うが、今後の実施段階において、行政の常識にとらわれず、思い切った創意工夫をしていただきたい。
30	社会増減は、日本全国が対策をしている中で赤磐市だけが倍増するとは考えられないので、やはり、出生率の向上が必要となる。 出生率の向上は現実問題として難しいが、出生率2.07にならないと人口が減ってしまうので、対策をするとなると思い切ったことをしなければならぬ。 たとえば、第3子以降については、特別な子育て支援をするなどの対策が必要だと思う。
31	転入でいえば、近所を見回すと「実家が吉井地域で勤めが岡山市なので山陽団地に住んでいる」など、岡山市内に勤めているが、実家は周辺地域や近隣の他市町にあるという人が多い。 若い世代は子育てにお金がかかって給料も安い時期なので、たとえば、結婚して10年間限定で空いている市営住宅とか県営住宅を格安で貸すことで、10年たったときにあらためて山陽団地に家を建てて定住してもらおう、といった手立ても考えられる。
32	岡山に通勤通学するとなると、バスの便などの通勤通学の利便性の確保も必要だと思うので、この辺のこともできることがあれば検討していただければと思う。
33	人口ビジョンをみると、高齢化率が将来的に40%ぐらいになる。現実問題として、この中にはアクティブな人もいれば、そうでない方もいると思うが、高齢者が生きがいを持った老後を得られる、ということが一番だと思うので、就業のことも含め、高齢者のこともしっかりと考えていただきたいと思う。
34	クラウドソーシングということが戦略に書いてあったが、子育てが終わった女性やアクティブシニアといった方に限定して、市内で働けるように就職面接会を開催するなど、高齢者の働く場所の確保を行政が汗をかいて行うことも必要なのではないか。
35	農業の担い手確保が必要だが、TPPのこともあり、食べていける農業でないと跡を継げとは言いにくいと思う。食べていける農業のためには、規模拡大ということもあるが、赤磐市を農業の先進地にするということであれば、企業的農業経営など民間企業の参入を進めることや、法人化、集落営農などにも力を入れていただければと思う。
36	出た意見をベースに、政策の順番を変えとか、重要な施策の部分は強調文字にするとかしていただけると、皆さんにいただいた意見の部分がより反映できるのかなと、思うので、検討していただければと思う。